

ゼロ



# から考える 学生協働



次の **1 歩** を踏み出そう



2014年8月21日(木)－8月22日(金)

山口大学 吉田キャンパス

第4回 大学図書館学生協働交流シンポジウム



# 0（ゼロ）から考える学生協働

## — 次の1歩を踏み出そう —

いま、各地で大学図書館を舞台として、学生が職員とともに図書館の運営にかかわり、さまざまな企画に取り組んでいます。

きっとこの取り組みによって図書館が変わる！学生も変わる！職員も変わる！

このシンポジウムでは「そもそも学生協働とは？」というところから将来の学生協働について考えていきます。

### ■プログラム

〈1日目〉8月21日（木）		
12：30～	受付	大学会館
13：00～	開会の挨拶 山口大学理事・副学長（教育学生担当） 大学教育機構長 額 厚	
13：10～	基調講演「キャリアから考える学生協働」 講師：山口大学大学教育機構 学生支援センター教授 平尾 元彦	
14：10～	* 休憩・会場移動 *	
14：30～	アイスブレイク（レクリエーション）	第2学生食堂きらら
14：50～	ポスターセッション	
16：50～	* 休憩・会場移動 *	
17：10～	図書館見学	総合図書館
	* 休憩・会場移動 *	
18：00～	交流会	第2学生食堂きらら
〈2日目〉8月22日（金）		
9：00～	ワールドカフェ「学生協働は利用者の役に立ってるのか？」 コーディネーター：山口大学大学教育機構 大学教育センター准教授 林 透	第2学生食堂きらら
11：30～	閉会の挨拶 山口大学副学長（学術情報担当） 大学情報機構長 山内 直樹	
	* アンケート記入・休憩・会場移動 *	
12：15～	事例報告および意見交換 ※教職員のみ	総合図書館
14：45	終了	

### ■主催

島根大学附属図書館／島根大学教育開発センター  
島根県立大学メディアセンター  
梅光学院大学図書館／梅光学院大学学生支援センター  
山口大学大学情報機構／山口大学大学教育機構

### ■共催 山口県大学図書館協議会

### ■後援

中国四国地区大学図書館協議会  
島根県大学・高等専門学校図書館協議会  
山口大学後援財団

\* - \* - \* - \* - \* - \* **事前アンケート** \* - \* - \* - \* - \* - \*

質問

- 1 団体名
- 2 スタッフの人数、その構成
- 3 具体的にどのような活動をしていますか。(内容・頻度など)
- 4 活動の際のユニホームのようなものはありますか。あればそれはどのようなものですか。
- 5 新メンバーを募集する時期について。
- 6 新メンバーの研修等は行っていますか。
- 7 図書館職員と学生が交流する機会がありますか。あるならばどのようなものですか。
- 8 学生スタッフ間の連絡は、どのように行っていますか。(例：メーリングリスト、LINE など) "
- 9 学生スタッフ間の親睦を深める工夫はありますか。
- 10 活動するうえで一番苦労していることはなんですか。
- 11 学生スタッフを支える職員側の組織がありますか。あるならば具体的にどのようなものですか。
- 12 学生スタッフとどのように連絡を取っていますか。(例：メーリングリスト、LINE など) "
- 13 学生スタッフが図書館づくりにかかわることによって、図書館はどのように変わったと思いますか。
- 14 前回のシンポジウム参加後、活動に変化はありましたか。あるならばどのような変化ですか。
- 15 今回のシンポジウムにはどのようなことを期待しますか。
- 16 今後の学生協働の展望について自由にお書きください。

1 岩手県立大学

質問	回答	
	学生	職員
1	ライブラリー・アテンダント (通称LA)	
2	人数： 24 人 (男： 5 人、女： 19人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 6人、2年生 7人、3年生 2人、4年生 9人、大学院生 0人	
	学部名 (人数) : 看護学部 (3人)、社会福祉学部 (6人)、ソフトウェア情報学部 (6人)、総合政策学部 (7人)、短期大学部 (2人)	
3	図書館の案内、図書館内外での企画展示・イベント(読書会やビブリオバトルなど)の開催、広報活動などの活動を行なっています。	
4	パーカー、エプロン、ポロシャツ	
5	時期： 4 月ごろ	
	具体的な募集方法：図書館を含む学内に募集ポスターの掲示、図書館ホームページでの通知、全新生生に対し募集チラシの配布、新入生対象の図書館案内などで募集の周知を行ないました。	
6	誰が： 図書館職員、LA	
	具体的な研修内容：図書館の施設や設備の説明、本や情報の探し方などの基礎研修を行なっています。	
7	具体的な内容：全体のミーティングを年数回、リーダーミーティングを月数回開催し、学生と図書館職員とで活動の進捗状況を確認しています。また、LA主催のイベント等に職員が参加するなどで交流を図っています。	
8	ミーリングリスト	
9	活動していると自然と親睦が深まるので特にはないです。	
10	おとなしい人が多いので意見があまりでないことです。	学部、学年が異なるので、学生全員揃ってのミーティングをする事が難しいため、活動計画等の情報共有に苦労しています。
11		組織は特に設けていませんが、担当職員4名で対応しています。
12		学内メール、ミーリングリスト
13	まわりの友達や利用者から意見を気軽に取り入れることができるようになり、勉強スペースの確保や学生が本を購入するなど、学生に優しい過ごしやすく快適な空間に変えることができていると思います。	目に見える変化としては、学生の図書館入館者数、図書の貸出冊数の増加があげられます。また、授業の合間に新聞や雑誌、LAオススメの本を見に来る学生など、学習以外の目的で来館する学生が増え、学生が図書館に関わる事で、他の学生にとっても、気軽に図書館に来てくれる雰囲気になったと感じます。
14	今回初参加	今回初参加
15	初参加なので、できるだけ多くの大学の発表を開けることを期待しています。	他の大学図書館で活動している学生の姿を実際に目にする事で、自分達の活動について見つめ直し、参考に出来る活動は積極的に取り入れるなど、LA活動に生かしてほしいです。
16	他県の大学と交流する機会は貴重なのでぜひ今後も続けてほしいです。	学生の意見を反映していき、学生にとって居心地の良い場所となり、図書館がなくてはならない場所となってほしいです。

2 山形大学

質問	回答	
	学生	職員
1	山形大学小白川図書館・学習サポート アドミニストレイティブ・アシスタント（学習サポートAA）	
2	人数： 7人（男： 5人、女： 2人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 人、2年生 人、3年生 人、4年生 人、大学院生 7人	
	学部名（人数）：大学院社会文化システム研究科（2人）大学院地域教育文化研究科（2人）大学院理工学研究科（3人）	
3	学習相談（10コマ/週（1コマは2時間））、レポート作成ガイダンス（3回/年）、新入生のための図書館ガイダンス（10回/年）、文献検索セミナー（2回/年）、基盤教育の導入科目「スタートアップセミナー」の図書館ガイダンス（32回/年）	
4	ユニホームは、ない。腕章を着用している。	
5	時期： 3月頃	
	具体的な募集方法：図書館長からキャンパス内の各大学院研究科長に対して、学習サポートAAの推薦を依頼し、当該推薦に基づき図書館長が選考を行う。	
6	誰が：していない。先輩のAAが、前年の資料等を参考にしながら後輩を指導する。	
	具体的な研修内容：	
7	具体的な内容：図書館職員と学習サポートAAが、月1回の定例ミーティングで活動内容の打合せ、イベント後のまとめ等を行っている。	
8		
9		
10	学習サポートAAに係る雇用経費の確保 イベントなどの日程調整	
11	特別の組織はないが、学習サポートAA担当の図書館職員が対応している。	
12	メール	
13	学習サポートAAが、学生の学習相談に対して、同じ学生目線で先輩としての立場からアドバイスを行うなど、資料検索等に留まらず、図書館サービスの幅が広がった。 また、学習サポートAAが、自らの体験談を交えながら行うレポート作成ガイダンスなどは、初年次学生に好評で、図書館の認知度が高まるとともに、図書館をより身近なものに感じてもらえるようになった。	
14	今回初参加	今回初参加
15		現在の活動を新たな視点で捉え直す契機としたいので、自由闊達な意見交換等を期待している。
16		学生協働は、学生の視点に立ったサービスの向上や学生自らの就業意識の向上を図る上でも重要であることから、図書館業務に限らず、大学のいろいろな場面で活躍できる機会をもっと増やしていくことにより、学生サービスの向上と大学としての「人づくり」にとって有意義なものになると思う。

3 東京大学

質問	回答	
	学生	職員
1	東京大学新図書館計画 ACS (Academic Commons Supporter)	
2	人数： 15 人 (男： 11 人、女： 4 人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 0 人、2年生 1 人、3年生 1 人、4年生 6 人、大学院生 7 人	
	学部名 (人数)： 理工系5人、教養学部3人、文学部3人、経済学部2人、その他2人	
3	内容：ウェブコンテンツの作成、イベント企画・運営、ツイッター など。「課題を自ら発見し、解決にむけて取り組む」というのが特徴です。 頻度：学生の興味やそのとき動いている企画数によって変動しています。リアルに集まるのは週1～月1ですが、決まった日に集まるということではありません。原則はオンラインでのやり取りで、こちらは多いときは毎日行われています。	
4	なし	
5	時期： 4 月ごろ	
	具体的な募集方法： 学内でのポスター掲示、ホームページ、ツイッター	
6	誰が： 職員+前期から継続の学生 具体的な研修内容：研修と言うほどではないですが、期が変わるごとにキックオフミーティングを開いており、そこで大まかな活動の説明をしています。前期から継続している学生 (一部) には自分の活動や進行中の企画について説明してもらっています。	
7	具体的な内容：上述のキックオフミーティングの際には、他のチームの職員にも声をかけます。 その他、活動自体が学生の興味によって変わるので、必要に応じて必要なチームと関わっていきます。	
8	メーリングリスト、グループウェア	
9	あまりないので、ぜひ他大の事例を伺いたいです。	
10	予定を合わせるのがなかなか大変なことです。オンライン上である程度議論を進める事もできますが、やはり直接会って話す方が伝わりやすい部分も多くあります。	職員はそれぞれの所属部局で自分の仕事を持っており、それとはかなり独立した形で学生との活動に参加している状況です。そのため、業務量の多さや本務との調整は課題の一つです。 学生の興味や問題意識がベースになる活動なので、活動量や活動時期にばらつきがあります。
11		東京大学の新図書館計画に関連して、図書館職員による課題検討グループというものがあります。そのグループの一つが「学生協働チーム」で、このACSに関わる業務を担当しています。
12		メーリングリスト、グループウェア
13		ある程度長い期間、かつ深く関わってもらうことで、学生の意見を本質的に取り入れることが可能となっています。職員としても、学生からの意見は新鮮で良い刺激になっています。 また、学生を通して他の組織とのつながりも生まれつつあります。
14	今回初参加	今回初参加
15	他大学の事例を学び、それを東大にどう活かせるか、またその中でACSはどのように関わっていけるかを考える機会としたいです。	「学生協働とは」という広い枠組みから、改めて活動を見直すとともに、他大学の事例を吸収し、今後の活動に活かしていきたいです。 また、他大学の職員の方々と交流を持つことにより、今後につながる関係性を築ければと思います。
16	ACSが、図書館の認知度、便利さ、可能性などを伝えるハブのような存在になっていくといいなと思います。	まずは着実に成果を積み重ねていくこと。その上で、参加してくれる学生や職員を増やして行ければと思います。 活動内容としては、これまで成されてきた活動を継続するとともに、学生からの新しいアイデアを少しずつでも実現させていきたいです。

#### 4 龍谷大学

質問	回答	
	学生	職員
1	龍谷大学図書館 ライブラリーサポーター	
	人数： 9 人 (男： 2 人、女： 7 人) (下に内訳をご記入ください)	
2	1年生 人、2年生 4 人、3年生 5 人、4年生 人、大学院生 人 学部名 (人数)： 文学部 (9名)	
3	図書館広報誌への原稿提供、マイクロフィルム使用講座の実施、お薦め本の展示など *2013年12月に任命式を行ったが、なかなか自主的な活動が展開できていない。	
4	ライブラリーサポーターの名札	
5	時期： 7 月ごろ 具体的な募集方法：館内掲示、図書館ホームページでの告知、図書館司書課程受講生へのチラシ配布	
6	誰が： 具体的な研修内容：なし	
7	具体的な内容：なし	
8		
9		
10	主体的な活動の展開	
11	なし	
12	メールでのやりとり	
13	自発的なサポートスタッフとしての成長を期待しているが、なかなか自主的な活動が展開できていないため、まだそのような効果は認識できていない。	
14	今回初参加	今回初参加
15	◎学生との協働事例の紹介 ◎職員の援助の方法、あり方 ◎図書館以外の組織との連携 なお、本学においては有給のアルバイトスタッフと、無給のボランティアスタッフが併存しているため、学生スタッフの意識の統一が困難な状況にある。同様の体制にある大学での解決などをご教示いただきたい。	
16	図書館における学生協働の活性化をととして、学生が主体的に学び・活動することの楽しさをつかみ取って欲しい。	

#### 5 美作大学

質問	回答	
	学生	職員
1	美作大学図書館ボランティア	
	人数： 14 人 (男： 2 人、女： 12 人) (下に内訳をご記入ください)	
2	1年生 2 人、2年生 7 人、3年生 2 人、4年生 3 人、大学院生 人 学部名 (人数)：社会福祉学科4人/児童学科3人/食物学科3人/幼児教育学科4人	
3	ブックハンティング 年2回、ブックハンティング感想会 年2回 (市内高校・高専学生協同)、交流会 年1回 古本市 年1回、しおりコンクール 年1回	
4	なし	
5	時期： 4～5月ごろ 具体的な募集方法：ポスター フライヤー 全体ガイダンスでの勧誘	
6	誰が： なし 具体的な研修内容：なし	
7	具体的な内容：バーベキュー (6月ごろ)	
8	携帯メール	
9	親睦会 (バーベキュー)	
10	参加の偏りと活動への積極性の低さ	自主的に参加するボランティアなので、活動への参加度や意識が違っていること
11	なし	
12	メール	
13	図書館が身近に感じられるようになったと思う	学生スタッフ以外の学生とも距離が近くなる
14	活動はあまり変わっていない	参加した学生の意識が高まった
15	ほのぼのとした雰囲気	
16	学生がさらに責任と積極性をもって自立的に活動すること。一般学生にも親しみをもたれるようになれば良いと思います。	学生協働の活動に正解はないと思うので各団体それぞれに自由に活動してもらいたい

6 広島大学（ライティングセンター学生チューター）

質問	回答	
	学生	職員
1	広島大学図書館（ライティングセンター学生チューター）	
2	人数： 9人（男： 6人、女： 3人）（下に内訳をご記入ください）	
2	1年生 人、2年生 人、3年生 人、4年生 人、大学院生 9人 学部名（人数）：教育学研究科（7人）、社会学研究科（1名）、先端物質科学研究科（1名）	
3	ライティングセンターにおける文章作成支援業務、およびライティングセンター関連業務 1人あたり週に1～5コマ程度勤務のほか、全体ミーティングが週に1回	
4	なし	
5	時期： 2月および8月ごろ 具体的な募集方法： ライティングセンターおよび図書館のウェブサイト、関連授業での告知	
6	誰が： 現在の学生チューター 具体的な研修内容： ・レクチャー（セッションの流れ、目標の立て方、質問の仕方、論文の構成など） ・実習（書き込み作業、模擬セッションなど）	
7	具体的な内容：全体ミーティング	
8		
9		
10	どのようにして継続的な活動につなげていくか？	
11	要望や相談には担当係の職員が対応している。全体ミーティングには職員も参加。	
12	グループウェア、メーリングリスト、個別メール	
13		
14	前回は参加なし	
15		
16		

7 広島大学（学生選書）

質問	回答	
	学生	職員
1	広島大学図書館（学生選書）	
2	人数： 19人（男： 9人、女： 10人）（下に内訳をご記入ください） ※H26年度	
2	1年生 3人、2年生 5人、3年生 3人、4年生 4人、大学院生 4人 学部名（人数）：理学部（3名）、文学部（2名）、総合科学部（3名）、教育学部（4名）、医学部（3名） 研究科：総合科学研究科（1名）、教育学研究科（1名）、社会科学研究科（1名）、国際協力研究科（1名）	
3	図書の選定：Web選定とブックハンティング、活動時期は例年7～8月	
4	特になし	
5	時期： 例年6月中旬 具体的な募集方法： Web申し込み	
6	誰が： 職員 具体的な研修内容： 研修は行っていないが、説明会を実施。選書基準・方法（ツール）などを教える	
7	具体的な内容： 多くはない。書店でのブックハンティングの際、皆で写真を撮ったり、話をしたりして仲良くなる。	
8		
9		
10	学生との連絡調整（学生が忙しいため、つかまらない）	
11	ある。資料選定委員会（図書館資料を選定する図書館職員の集まり）のうち数名が担当する	
12	メーリングリスト	
13	積極的に図書館と関わろうとしてくれる学生と接することで、職員の考え方も徐々に柔軟になってきているように思う（が、まだ十分ではない）。	
14	前回は参加なし	
15	現在、本活動は職員主体で成り立っている。 学生主体で活動されている機関の職員の方へ、他の職員と学生の間にはさまれ判断に困った経験や、どのようなスタンスで協力・補助しているか等、おたずねしたい。	
16	本活動は、職員主導で開始したこともあり、「運営を学生に一任する」までの踏み切りがっていない。 ただ、年々、楽しくもすっかりと選定を行うことで、まだ本活動に関わりのない学生や職員の理解を得ようと努力してきた。今後も、学生と一緒に本学の「学生協働」のかたちを見つきたい。	

8 広島工業大学

質問	回答	
	学生	職員
1	広島工業大学附属図書館	
2	人数： 10人 (男：8人、女：2人) (下に内訳をご記入ください)	
	大学院生 10人 専攻名(卒業学部)人数：電気電子工学専攻(工学部卒)3人/機械システム工学専攻(工学部卒)1人/知的機能科学専攻(工学部卒)1人/情報システム科学専攻(情報学部卒)2人/環境学専攻(環境学部卒)3人	
3	<b>【活動時間】</b> 平日15時～21時/土曜日12時30分～16時30分 <b>【活動内容】</b> 学習相談、レファレンス業務、図書館業務 ※学習相談は、課題やレポートをはじめ、就職活動、ゼミ、サークル活動について、など幅広く受けています。	
4	オリジナルエプロン	
5	時期： 2月ごろ	
	具体的な募集方法：各専攻主任からの推薦、学生の立候補	
6	誰が： 学生スタッフ(学生アドバイザー)担当の職員	
	具体的な研修内容：図書館業務についての説明、日本十進分類法について、個人情報について、著作権について、OPACやデータベース(CiNiiやJdreamIIIなど)の使い方など	
7	具体的な内容：月1～2回開催するミーティングや学内行事への参加	
8	メーリングリストの活用、自主的にLINEでグループ作成。	
9	業務外のイベントを企画するなどして、交流を図っている。	
10	専攻外の質問への対応。	学業優先のため、ミーティング等でなかなか全員が集まることができないので、全員の意思疎通や情報共有に一番苦労しています。 あと、モチベーションを保つための工夫などにも苦労します。
11		組織は特にありません。 学生アドバイザー担当の職員が学生と話し合いの場を持ち、こまめに情報共有をするようにしています。
12		メーリングリスト、電話。
13	相談が徐々に増えてきている。 学生アドバイザーが選書した棚をつくる、各専攻を生かした広報物(AR、パラメトリック・スピーカー、イルミネーション)を設置することで、利用者の興味を引く仕掛けをつくらせている。	学生アドバイザーが積極的にアピールをしているため、質問にくる学生が増加してきています。図書館にくると課題が解決する・というイメージを学生にもってもらえています。 学生アドバイザーが、図書館の広報やサービスの向上に自身の研究を応用しようと様々な取り組みをしてくれているので、広島工業大学らしさを出すことができます。(ARでの図書案内、パラメトリック・スピーカーを利用した音声案内、イルミネーションなど)
14	今回初参加	今回初参加
15	他大学が、図書館における学生目線の活動として具体的にどのようなことをしているのか、利用者を増やすためにどのような仕掛けをつくっているのかなど、多くの情報を得られることに期待します。	他大学の学生スタッフの活動について詳しく知ることができるので、取り入れられそうなことや、同様の課題についてどのように対処しているのかなど、多くのことを吸収できるのではないかと期待しています。
16	<b>【目標としていること】</b> 現在、図書館のサービス向上の手段として導入しているAR(拡張現実)技術を用いた図書検索・案内のスマートフォン向けアプリも開発しているところです。手軽に利用できるようになるため、さらなる学習支援効果が得られるのではないかと期待しています。 これは今年の図書館総合展のポスターセッションにて発表する予定です。	ARやパラメトリック・スピーカーを用いた広報や学習支援のさらなる発展が期待できます。ハード面もですが、ソフト面でも利用者を惹きつける工夫を学生アドバイザーが取り組んでいるところです。 また、徐々に学生アドバイザーの知名度も上がってきているので、さらに相談者が増加するような仕掛けを実施していこうと考えています。パスファインダーの作成、学生目線の選書・展示等、今後も積極的に活動してもらいます。

9 広島女学院大学

質問	回答	
	学生	職員
1	広島女学院大学図書館	
2	人数： 5 人（男： 0 人、女： 5 人）（下に内訳をご記入ください）	
2	1年生 0 人、2年生 0 人、3年生 3 人、4年生 1 人、大学院生 1人	
2	学部名（人数）：国際教養学部(2名)、生活科学部（1名）、人間生活学部(1名) 言語文化研究科(1名)	
3	① ILL受付業務：週5日 1.5時間/日 ②書架整理：週5日 1時間/日 ③ライブラリーアドバイザー：週2回 3時間/日	
4	②書架整理の学生は書庫内で活動するので一般の学生と区別できるように赤いエプロンと名札を付けています ③は名札のみ	
5	時期： 2月～3月ごろ	
5	具体的な募集方法：図書館のHP、館内に掲示	
6	誰が： 担当者	
6	具体的な研修内容：初日に担当者が業務内容の説明をしています（マニュアルあり）	
7	活動の前後に	
8	学内メール	
9	挨拶	
10	特にありません。	特にありません。
11		ありません。
12		メール・携帯電話
13	学生が利用者としてだけでなく、図書館業務に接することができるため、図書館業務に対する理解とより活発に利用しようとする意識が生まれた。	大学院生（他に社会人2名が活動中）によるライブラリーアドバイザーの活動により職員への質問が減少しているのを実感しています。
14	今回初参加	今回初参加
15	わかりません。	他大学図書館の学生協働についての取り組みについてお聞きし、参考にさせていただきたいです。
16	・学生がより気軽に図書館のお手伝いができ、図書館業務を経験できるようになって欲しい。 ・私たち学生にとっても良い経験になるので学生協働を継続していただきたいです。	本学には司書課程があり、図書館司書を目指す学生がいるので学生協働により図書館をより深く知ってもらえる機会になると思います。

11 下関短期大学

質問	回答	
	学生	職員
1	下関短期大学 (学友会公認部活動「ほんの倶楽部」)	
2	人数: 6 人 (男: 人、女: 6 人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 3 人、2年生 3 人	
	学部名 (人数) : 保育学科 (6 名)	
3	絵本を中心とした推薦図書の学内掲示紹介 (1ヶ月1冊) 学内掲示「図書館報」における文案作成 (不定期) メンバーによる読書会・ブックレビュー (不定期、年に1~2回) 大学祭における舞台発表 (大型絵本を使用した「読み聞かせ」発表) ブックハンティング (年1回)	
4	特になし	
5	時期: 特になし (随時参加希望者を受け付けている)	
	具体的な募集方法: 4月、新入生に対するオリエンテーションにおける学友会活動紹介の折に紹介	
6	誰が: 部活動なので「研修」はなし	
	具体的な研修内容: クラブ担当教員を中心とした読書会・活動展開に関する話し合い等あり	
7	具体的な内容: ・推薦図書の掲示に際する個別相談 ・ブックハンティング時における相談・連絡	
8	相互のメール連絡	
9	特になし (指導教員と共に茶話会を開いている)	
10	保育学科学生 (特に2年生) は、年に4回 (各2週間) も保育現場での実習があるため、活動時間がなかなか取れない	短大生は、初年度と最終年度の2年という在学期間のため、上級生から下級生へ活動を継承する時間的猶予がない
11		教員が本に興味がある学生に対して、直接参加を呼び掛けなければ部員は集まりにくい
12		メール、個別に呼び出し
13	希望図書の購入につながった	ラーニング・コモンズの設置・改善に結びついた
14	今回初参加	今回初参加
15	学生は不参加 (部員2年生は保育実習期間中、1年生は補講受講・別行事参加等で不参加)	(8月21日のみ参加)
16	部員が途切れないような活動の展開	昨年度、梅光学院大学図書館の見学を学生と共にし、絵本コーナーの再考を行った。 絵本コーナーは、保育学科学生が最も頻繁に使用する場所のため、今後も継続して学生が親しみやすい「絵本コーナー」づくりに取り組みたい。 また、栄養健康学科学生に対しては、資料の配架場所に対する再考を行いたい。

## 12 山口東京理科大学

質問	回答	
	学生	職員
1	山口東京理科大学	
2	人数： 5人（男： 3人、女： 2人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 人、2年生 人、3年生 2人、4年生 3人、大学院生 人	
	学部名（人数）：工学部 5人	
3	閲覧業務、書架整理、企画展示	
4	なし	
5	時期： 1月ごろ	
	具体的な募集方法： 学内の掲示板にて募集要項を掲示する。	
6	誰が： 図書館	
	具体的な研修内容： 業務研修、コミュニケーションについて	
7	具体的な内容： 毎月1回ミーティングを行い、業務連絡、企画展の提案を行う。	
8	メール、LINE	
9	よく話をすること	
10	業務を覚えること。書架整理。	特になし
11		特に組織はなく、図書館職員がサポートする。
12		メール、電話
13	図書館利用者の目線で考えることができ、利用しやすくなった。	学生スタッフが企画展を行うことにより、日頃、図書館を利用していない学生が来館するようになった。 また、学生スタッフが選書することにより、必要とする図書が分かった。 その他、毎月「気づき」を報告してもらうことにより、新たな発見があり、図書館の改善に役立っている。
14	今回初参加	今回初参加
15	今回は参加できないが、参加する職員を通じて他大学の活動を知ることによって図書館の充実に繋がること。	他大学図書館の具体的な活動内容を知ること。
16	大学図書館がより良いものになるために、他大学図書館との交流が盛んになれば良いと思う。 学生だからできることを見つけていきたい。 図書館の活動を通して、学生と地域社会がもっと深いつながりができたら良いと思う。	活動を通じた学生スタッフの成長

## 13 愛媛大学

質問	回答	
	学生	職員
1	図書館サポーター (LS)	
2	人数： 32人 (男： 6人、女： 26人) (下に内訳をご記入ください) 1年生 11人、2年生 11人、3年生 6人、4年生 4人、大学院生 0人 学部名 (人数)：法文学部 (21人)、教育学部 (3人)、工学部 (3人)、理学部 (4人)、農学部 (1人)	
3	・情報誌「月刊ひよこ」の作成・季節に合わせた展示企画 (七夕企画、クリスマス企画等) ・シェルフリーディング (図書館の蔵書整理) ・シフト制の週1回の図書館活動・週2回のLSミーティング	
4	図書館活動中は”図書館サポーター”と書かれたネームカードを着用しています。	
5	時期：4月ごろ 具体的な募集方法：4月に行われる新入生対象の学生生活オリエンテーションでの団体説明・LS会 (新歓) を行っています。	
6	誰が： 具体的な研修内容：新メンバーの研修等は行っていません。	
7	具体的な内容：図書館長や図書館員の方と学生とが図書館について話し合う座談会を年に2回ほど行っています。	
8	メーリングリスト、LINE	
9	週2回行っているLSミーティングで、それぞれが意見を出し合えるよう雰囲気づくりに努めています。	
10	・図書館で行う企画や展示を、図書館外の人たちに広く知ってもらうにはどうすればよいか ・メンバーの人数が多く、全員が集まって図書館活動や企画について話し合える機会の取得が難しいこと	図書館での活動場所をもう少し広くあげたいです。
11		組織としてはありませんが、学生との窓口となる担当者がいます。
12		メールや直接口頭で。
13	学生目線で活動することによって、学生の意見が取り入れられ、より学生が親しみやすい図書館になったと思います。	普段の活動や座談会などで、カウンターの内からではなかなか聞けない、忌憚のない生の声や素朴な疑問を直接聞けるため、とてもありがたく思っています。また、企画なども継続的に行ってくれているので、図書館のメイン展示コーナーがさびしくなることがなく、図書館の雰囲気づくりに一役買っています (図書館スタッフもこっそり楽しみにしています)。 また、発足からこれまでの活動では、 ・OPACの表示改善 (配置場所をわかりやすく) ・オススメ本 (学生視点からのオススメは学生にもなじみやすい) ・シェルフリーディング (書架の整理をしてもらっていることで、他の利用者が本を探しやすくなる) ・消しゴムカス入れ (学習環境の向上!) など、地道に少しずつ、図書館のいろいろなところが改善されています。
14	前回のシンポジウムは天候により不参加でしたが、後日送って頂いた資料から自団体の活動に関するフィードバックを行うことができました。	天候により残念ながら参加はできませんでしたが、発表用に資料をまとめたり作ったりすることは、自分たちの活動を振り返るいい機会になっていたように思います。
15	他大学の団体がどのような活動を行い、どのような問題を抱えているのかなどを知る良い機会だと思います。そこから、自団体の活動に活かせる点や改善点を見つけたいです。さらに他団体と交流を持つことにも期待します。	学生協働の学生は、ボランティアであったり、有償のスタッフであったり、図書館や大学により様々に異なっています。それにより活動時間や活動形態が変わってくるため、「他の図書館ではこれもやっているが、うちではできるのかな?」ということが (人数や能力的に) どうしても出てくると思います。活動形態も人数も行っている範囲も様々な中で、[大学協働]の原点を振り返り、今後の活動のサポートに活かしたいです。
16	私たちは、図書館と学生をつなぐサポーターとして日々活動しています。活動するうえで、学生の意見をより図書館に取り入れていくためにはどうすべきか、ということが常に問題となってきます。そこで、学生だけでは解決しづらい点については、図書館員さんとの協力が必要不可欠です。今後も、私たち図書館サポーターと図書館員さんとの結束を強め、よりよい図書館づくりに努めていきたいです。	直接学生の「生の声」が聴ける、というのは、やはり学生協働の一番の利点だと思います。大学、図書館という場では、もちろん学生を多く目にしますが、直接どれだけの声を拾えているか、というと、難しいのが現状です。学生協働のスタッフは、学生でもあり、図書館に関わる人でもある、という点で、とても貴重な存在です。年によって場所によって活動の差異はあれど、地道に、継続して活動をしてきていることは、間違いなく学生と図書館の懸け橋になっていると思います。さらに、それを入り口として、お互いの情報を得て、考え、協力して、より活動しやすく、利用しやすいものにしていくことは、とてもやりがいがあり、楽しいことだと思っています。これからも、学生協働のスタッフを職員員のパートナーとして、一緒に図書館を盛り上げていきたいです。

14 徳島大学(ライブラリーワークショップ)

質問	回答	
	学生	職員
1	ライブラリーワークショップ	
2	人数： 15 人 (男： 1人、 女： 14人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 2人、 2年生 3人、 3年生 5人、 4年生 4人、 大学院生 1人 学部名 (人数) : 総合科学部(14)、工学部(1)	
3	週に一回のミーティングを行って、図書館内の本の展示やイベントの企画などを行っています。また、月に一回オリジナルの新聞を発行しています。これまで行った活動は下記の通りです。 ・ポップコンテスト ・テーマ展示 ・広報ポスターの作成 ・オリジナル新聞 (Love Library Letter) の発行 (月刊) ・持ち寄った本について語り合う会 ・帯づくり (図書館の本に帯を作って展示) ・図書館ツアー ・県内高校の授業で活動内容の紹介 ・徳大生主催のLiving Libraryでブース出展	
4	ユニフォームは特にありません。	
5	時期： 主に4月ごろ。ただし、常にメンバー募集中。	
	具体的な募集方法： 図書館で展示やイベントを行った際にライブラリーワークショップのポスターを掲示している。また、徳大図書館のメールマガジン (毎月発行) でも広報している。	
6	誰が： 研修等は特に行っていません。	
	具体的な研修内容：	
7	具体的な内容： 展示やイベントで図書館内の施設・設備を使うときは、図書館職員さんと相談しながらやっています。また、オリジナル新聞 (毎月発行) の記事の一部を図書館職員さんに書いてもらっていたり、徳大図書館のメールマガジン (毎月発行) に活動報告を掲載してもらったりしています。	
8	<p>メーリングリストを作っており、週一回のミーティング内容などは当番制で議事録を書き、メーリングリストで流しています。</p> <p>また、普段の連絡やミーティング内容の確認はLINEグループを作っているのでもので行っています。</p> <p>メーリングリストには図書館職員さんや指導教員の方も含めて登録されていますが、LINEグループは学生メンバーだけが入っています。</p>	
9	<p>月に一回ランチミーティングを行ったり、たまにイベントのような感覚でミーティングを本について語り合う時間に行っています。</p> <p>私たちの活動は自分たちが楽しむことを大事にしているので、展示などの活動も一部の人がやるのではなく、多くのメンバーが参加して楽しく活動できるよう心がけています。</p>	
10	活動が活発になり、チームが大きくなってきたので、役割を分担しようとしています。現状は一部のメンバーに過重な負担がかかっていることです。	今年度から職員がミーティングに参加していないため、学生の活動の様子が分かりにくいところがあります。図書館内の施設・設備を使用する際の連絡等が不十分なこともあり、今後の課題です。また、学生の活動にどこまで職員が手を出すかについても苦慮しています。
11	図書館内にラーニング・コモンズ検討ワーキンググループが設置されており、学生協働活動を支援しています。	
12	メーリングリストや学生の個人アドレスを使用して、連絡を取っています。	
13	いい意味で図書館らしくなくなったと思います。図書館職員さんという図書館について知り尽くした人ではなくて、学生という違う視点から図書館を盛り上げようとするので、それまでとは違う人たちに興味を持ってもらえたり、もともと図書館が好きだった人にも新しいものを提供できたりしていると思います。	学生ならではの企画を行えるようになったと思います。本の紹介を中心とした企画 (イベント・展示など) を定期的に行っており、利用者の興味・関心を引いています。また、学生の知り合いが増えたことで、学生の意見を聞いたり、学生を通じていろいろな企画への広報を行えるようになりました。
14	前回のシンポジウムに参加した人から他大学の活動について報告はありましたが、とくに全体的な活動としては変化はありませんでした。	
15	図書館で活動する他大学の学生と交流したいと思います。	本学での取り組みを報告すると共に、他大学の取り組みを広く知り、今後の活動に活かしたいと思います。また、本シンポジウムに参加することで、学生の見識が広がり、今後の活動に繋がると嬉しく思います。
16	大学図書館が学生にとって魅力的な存在になるよう活動することで、学生にもっと大学を好きになってもらいたいと思います。	今後も学生ならではの視点で、楽しみながら図書館を盛り上げて欲しいと思います。

15 徳島大学(阿波ビブリオバトルサポーター)

質問	回答	
	学生	職員
1	阿波ビブリオバトルサポーター (徳島大学公認サポート系サークル)	
2	人数： 7 人 (男： 1人、 女： 6人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 0人、 2年生 0人、 3年生 0人、 4年生 4人、 大学院生 3人	
	学部名(人数)：総合科学部(4人)、総合科学教育部(2人)、鳴門教育大学学校教育研究科(1人)	
3	大学の先生、図書館職員の方々と一緒に、ビブリオバトルの企画・運営をしています。最近では、大学の読書関係の授業でビブリオバトルが取り上げられたため、デモンストレーションという形で参加させて頂きました。また、毎月1回テーマを決めたビブリオバトルを図書館内で行っています。(1月は「START」、2月は「LOVE」など)今後の活動としては、8月に社会人×大学生のビブリオバトルの大会を開催する予定です。また、9月には、徳島市立図書館で高校生と一緒に大会を行う予定です。	
4	ないです。	
5	時期： 特に決まった時期はなく、随時募集しています。 具体的な募集方法： ビラ配り、勧誘	
6	誰が： 行っていません。 具体的な研修内容： 行っていません。	
7	具体的な内容： 基本的に図書館職員の方と一緒に活動しています。(企画についてのミーティング、毎月行うビブリオバトルの参加、大会当日の会場設営や進行など) また、学生だけでは分からないことがあったときにいつも相談に乗って頂いています。	
8	メールリスト、LINE	
9	サークル活動以外でも親睦を深めます。(飲みに行ったり、スポーツをしたり…)	
10	イベントを学外ですることが多いので、外部の方との意思疎通や協力が一番難しいです。(相手が大人の方なので…) また、メンバーが4年生・院生と忙しい人が多く、スケジュールを合わせることに苦労しています。	学生メンバーの多くが上級生なので、1,2年生の新メンバーを入れること。
11		図書館内にラーニング・コモンズ検討ワーキンググループが設置されており、学生協働活動を支援しています。
12		メールリストや学生の個人アドレスを使用して、連絡を取っています。
13	図書館を利用する人の多くはやはり学生なので、学生の視点が入ることにより、より図書館を利用してもらえるようになったと思います。自分の友達や先輩や後輩が図書館づくりに携わっていると聞くと、どんなことをやっているのかという興味も湧きますし、利用もしやすくなるので、学生スタッフが図書館づくりにかかわることは図書館にとってとても良い効果をもたらしていると思います。	学生が楽しそうにビブリオバトルをすることで、利用者の興味・関心を引いています。また、学生の知り合いが増えたことで、学生の意見を聞いたり、学生を通じていろいろな企画への広報を行えるようになりました。
14	前回のシンポジウムに参加した人から他大学の活動について報告はありましたが、とくに全体的な活動としては変化はありませんでした。	
15	今回のシンポジウムでは、他大学ではどんな活動をしているのかをたくさん知りたいと思っています。そして、色々な話を聞いて学んだことを、自分たちの活動に存分に活かしていきたいです。また、できれば他大学の人と繋がりをつくって、今後、情報交換をしたり、一緒に活動したりできるようになればいいなと考えています。	本学での取り組みを報告すると共に、他大学の取り組みを広く知り、今後の活動に活かしたいと思います。また、本シンポジウムに参加することで、学生の見識が広がり、今後の活動に繋げてくれると嬉しく思います。
16	学生、教員、図書館職員の方々と協力しながら、昨年よりも成果を残していきたいと思っています。ただ、職員の方に頼りすぎな部分もあるので、学生だけでできることはきちんと、私たち学生の自立も目指していきたいと考えています。特に今のメンバーは来年度から社会に出る人がほとんどなので、その準備としていままで以上に主体的に活動していきたいです。	今後も学生ならではの視点で、楽しみながら図書館を盛り上げて欲しいと思います。

16 徳島大学(学びサポート企画部)

質問	回答	
	学生	職員
1	学びサポート企画部 (徳島大学公認サポート系サークル)	
	人数: 7 人 (男: 3人、女: 4人) (下に内訳をご記入ください)	
2	1年生 1人、2年生 1人、3年生 1人、4年生 0人、大学院生 0人 (教職員 4人)	
	学部名(人数): 総合科学部(1)、工学部(2)、教職員(4)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生・大学院生がアドバイザーとして図書館で学習支援を行う企画であるSSS (Study Support Space)の運営(アドバイザーの時間割の日程調整や相談者のデータ管理、広報活動などの裏方的なサポート、常時)</li> <li>イベント(レポートの書き方講座や先生方の研究紹介、3か月に1回程度)</li> </ul>	
4	なし	
5	時期: 月ごろ 具体的な募集方法: 時期は特に決めず、ポスターを掲示したりメンバーから知人へ声掛けをしたりして、常時行っている。	
6	誰が: 具体的な研修内容: 行っていない。	
7	具体的な内容: ある。週1回のミーティングやイベント実施の際に参加していただき、指導やサポートをしてもらっている。	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバー全員が加入しているメーリングリスト</li> <li>学生メンバーと一部の教職員が加入しているLINEグループ</li> </ul>	
9	会話を交えながらミーティングや共同作業を行っている。	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営メンバーが増えない</li> <li>イベント実施の際に効果的な広報が行えない</li> </ul>	活動の意義等を学内の関係者、教職員に理解してもらうこと。ただし、徐々に理解が広がり始め以前より協力者が増えている。
11		組織的な支援としては、図書館内にラーニング・コモンズ検討ワーキンググループが設置されており、学生協働活動を支援している。また、学習支援担当の専門職員が配置されている。その他、実質的な支援は図書館、総合教育センターの有志教職員が助言、指導を行っている。
12		適宜、用途に応じてメーリングリスト、LINEを利用している。
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が図書館を訪れる機会が増えた。</li> <li>学生が先生ともかかわる機会を持てる場になった。</li> </ul>	学生が必要だと感じるサービスが展開できるようになった。例えば、学習相談、履修相談など。そのことで、図書館が学生にとっても教員にとっても、学習の場として認識され、図書館でアカデミックな企画を行いたいという学生、教職員が増え、利用率が向上し、活性化につながった。
14	活動するうえでモチベーション向上となる成果を多く残せるように、積極的にイベントを実施するようになった。	これまで実施してきた学習相談(Study Support Space)に加え、学生の学習に係るイベントを実施するようになった。
15	今後の活動の参考となる、他大学での取り組みやイベントを学べること。	図書館を活性化させている事例を収集したい。また、各大学の課題を共有し、今後の活動に活かせる知見を得たい。
16	図書館が、ただ漠然と「学習する場」としてではなく、「楽しみながら学習できる場」として認知されるようにしたい。そのために、学生協働を積極的に行い、図書館が学生でにぎわう場としたい。	継続的に学生と教職員が一緒になって企画を行うことができるようになれば良いと思う。

17 北九州市立大学

質問	回答	
	学生	職員
1	北九州市立大学図書館サポーター	
2	人数： 23人（男： 6人、女： 17人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 4人、2年生 9人、3年生 6人、4年生 4人、大学院生 0人	
	学部名（人数）：文学部（11人）、外国語学部（2人）、法学部（8人）、経済学部（1人）、地域創生学群（1人）	
3	1～2ヶ月に1度集まり以下のような活動を行っています。 ・館内の展示の作成 / 大学周辺のマップ作成 ・ビブリオバトル / 読書会 ・選書ツアー（直接書店へ行き選書した図書を購入後、POPをつけて展示） ・図書館だよりのブックレビューやコラムの執筆	
4	特にありません。	
5	時期： 随時募集しています。	
	具体的な募集方法：一年生を対象に行っている新入生図書館ツアー時にアナウンスしています。また、館内に申込用紙を随時配置し、興味のある方へご案内しています。	
6	誰が：	
	具体的な研修内容： 研修等は特に行っていません。	
7	具体的な内容：特にありません。	
8	全体への連絡は職員に任せているので、特に連絡はとっていません。	
9	特にありません。	
10	読書会を行う際、参加者の多い日程になるので、試験やレポートの締め切りと重なった時は本を読む時間を捻出することに苦労しています。	日程の調整です。一同で会することが困難なので、同内容の集まりを二回行うこともあります。
11		特にありません。
12		主にメールにて連絡を取っています。
13	展示等を行い、図書館が華やかになったと思います。また、学生が好きな本を人に紹介する場ができたのでより親しみやすくなったのではないかと思います。	学生の目線により選書された図書の展示や催しを行うことにより、より生活に役立つ情報を発信するようになったのではないのでしょうか。
14	今回初参加	今回初参加
15	特になし	他大学では学生協働をどのようにとらえ、どのように取り組んでいるのかを知り、当大学で新たな図書館を建設した際に運用の参考にできればと考えています。
16	他の大学の学生の取り組みを知り、よいところは取り入れて参考にし、これからゆっくりと考えていきたい。	大学図書館を舞台とし、学生が今よりも多くの仲間や職員とともに、ひとつこと取り組んでいけるような環境づくりの一助としたいと思います。

質問	回答	
	学生	職員
1	九州大学附属図書館	
2	人数： 19 人（男：12人、女：7人）（下に内訳をご記入ください）	
	医学部5～6年2人、大学院生17人	
	学部名（人数）：医学部・医学系学府（7）、地球社会統合科学府（4）、工学府（3）、理学府（2）、生物資源環境科学府（1）、統合新領域学府（1）、法学府（1）、	
3	学習ガイドをWeb上に作成（Cute. Guides）、学習相談デスクで利用者からの質問に対応（主に平日午後）、講習会の講師や講師補助、図書館ツアーのコンダクター、学習に役立つようなイベントの企画立案・実施	
4	あります。学習相談デスクに座る場合は必ず着用します。	
5	時期： 8月ごろ、1月ごろ	
	具体的な募集方法：図書館ウェブサイトや館内掲示で広報しています。	
6	誰が： 職員	
	具体的な研修内容：採用当初に業務内容の説明を行っています。また、学習相談に対応する新メンバーには、あらかじめ検索課題へ取り組んでもらいます。	
7	具体的な内容：学生スタッフと職員の距離が近いので、常にコミュニケーションをはかっています。また、伊都図書館と中央図書館では職員と学生スタッフとの定例ミーティングを行っています。	
8	メーリングリストで連絡しています。	
9	懇親会を開催しています。	
10	学習相談について、留学生への対応は、言語の壁もあり、困難を感じる場合があります。	学生スタッフに高いモチベーションをもち続けてもらうために職員からどんな働きかけを行っていくのか考えなければならぬところです。
11		あります。中央図書館、伊都図書館、医学図書館それぞれに学生スタッフをケアする担当がいます。また、中央図書館ではとりまとめとして全体に気を配っています。
12		メーリングリストで連絡しています。
13	学生スタッフが駐在することで、利用者が職員の方には聞きづらい質問や相談にも積極的に応じていることができます。また、学生スタッフがイベントの企画・立案を行うことで、図書館が学生にとってより快適・魅力的な空間になっていると感じます。	図書館のサービスや企画に学生目線の意見を加えられるようになり、内容が改善されました。また、学生スタッフが持つ人脈により、利用者の幅が広がったり、広報の効果が増したように感じられます。
14	今回初参加	今回初参加
15	ポスター発表を行いますので、ご意見をよろしくお願ひします。	学生スタッフのモチベーション・好奇心・創造性を高く維持するために職員がどのような働きかけを行っていくのが良いのか、また、学内への学生スタッフの認知度を高めるにはどのような手段があるのか等、学生スタッフとの協働の上でのヒントになるようなことを持ち帰りたいと思います。
16	学生スタッフの活動の幅を一層広げ、またスタッフ以外の学生をも積極的に巻き込んでいくことで、学生目線の図書館づくりが一層推進されるのではないのでしょうか。学生と職員双方の強みと弱みを把握し、相互補完を行っていくことが重要だと思います。	本学はアクティブ・ラーナーの育成を目指していますが、図書館に活気ある学びの雰囲気を生み出すためには、ますます、学生との協働が重要になってくると考えています。

19 九州産業大学

質問	回答	
	学生	職員
1	九州産業大学図書館 学生協働KULI	
2	人数： 18 人（男： 9 人、女： 9 人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 4 人、2年生 7 人、3年生 4 人、4年生 3 人、大学院生 0 人	
	学部名（人数）：経済学部1名、商学部1名、経営学部2名、芸術学部1名、国際文化学部11名、情報科学部2名	
3	月定例会の開催（毎月1回）、本棚企画（年4回）、季節の飾付（年4回）、広報誌の発行（年4回）、館内クイズの実施（年1回）など	
4	無	
5	時期： 年間を通して募集 具体的な募集方法： 4月～3月：前期・後期図書館利用ガイダンスでの告知 4月～3月：図書館HP（学生協働バナー）を通しての募集（ <a href="http://libwww2.kyusan-u.ac.jp/qa/kuli_form.php">http://libwww2.kyusan-u.ac.jp/qa/kuli_form.php</a> ）	
6	誰が： 学生協働メンバー（学生） 具体的な研修内容：研修会名目ではおこなっていないが、定例会や本棚企画などの活動を通して、メンバー同士が実施の目的や活動の意義について情報を共有し、互いに補完し合いながら取り組むことで、知識や技能の向上につながっている。	
7	具体的な内容：月定例会・本棚企画・季節の飾付・広報誌の作成・館内クイズ作成など	
8	メーリングリスト	
9	学生協働の活動に際してはメンバー全員の参加を促すように心掛けている。 活動自体がメンバーの親睦を深める機会となっており、定例会の際は気軽に意見が出せるようにランチミーティングを実施している。	
10	学生同士の連絡において返事がなかなか返ってこないことがよくある。	学生が主体的に活動できるよう図書館職員はアドバイザーに徹しているため、具体的な指示はおこなわないようにしている。 そのため学生からのレスポンスに時間を要することが多く、効率が悪い点。
11		学生協働担当スタッフとして職員2名・臨時職員1名を配置している。
12		電話・メーリングリスト
13		学生と図書館職員が協業することでお互いが助け合い、良い関係性の下で学生協働の運営ができています。 また、学生目線でイベントの企画・実施をおこなうことから来館する学生のニーズを的確に捉えている印象を受ける。 更には他学部他学年の学生同士が活動することで様々な視点を持って取り組んでいることもより良い図書館づくりに役立っていると思料できる。
14	今回初参加	今回初参加
15		他大学の学生協働の現状を理解し、本学にも生かせることを多く吸収したい。 「次の1歩」に繋がる何かを考えながら今回のシンポジウムに臨みたい。
16	過去にはLibraly Loversキャンペーンのように他大学との合同企画へ参加したり、図書館のマスコットキャラクターの制作をおこなった。 今後も図書館職員の方々と連携を取り、様々なイベントを行いたいと考えている。また図書館だけに留まらず、学内の様々な施設やプロジェクトとのコラボ企画など、図書館外にも手を広げ、入館者の皆さまに“人生の一冊”をみつけて頂けるよう、様々なイベント、活動を行っていこうと思う。	今後の本学の学生協働の在り方として図書館内での活動だけでなく地域や大学全体へ活動の場を広げたいと考えている。 限られたフィールドだけでなく大きなフィールドで学生の学びをサポートすることが学生の成長に繋がると認識している。 今後の取組みとしては、H26年度後期には学生協働主催のビブリオバトルを開催予定である。第1回は学生・教職員限定でおこなう。できることからコツコツと取り組んでいきたい。

## 20 佐賀大学

質問	回答	
	学生	職員
1	さらりーず	
2	人数： 39人（男： 6人、女： 23人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 9人、2年生 5人、3年生 10人、4年生 3人、大学院生 2人（うち1名は医学科5年生）	
	学部名（人数）：文化教育学部4人、経済学部8人、理工学部3人、農学部4人、医学部9人、医学系研究科(大学院)1人	
3	<p>基本的に学生選書委員会です。年度当初に1年間任期の委員を募集し、結成します。活動内容としては福岡市等の大型書店への選書ツアーがメインで夏季休業期中に2回行います。その際、図書館関連施設の見学も行うことがあります。</p> <p>過去には福岡のBIZCOLIや武雄市図書館などの見学を行いました。日程の都合上ツアーに参加できない学生が発生するので、後日インターネット等を活用した選書もしてもらいます。選書の予算は年間で1人あたり4万円程度です。選書後にはミーティングを行い、図書の入りの可否について審議を行います。また学生自主企画と称して、選書の館内展示選書以外で図書館に関わる活動も行います。</p>	
4	特にありません。	
5	時期： 4～5月ごろ	
	具体的な募集方法：館内にポスターや張り紙を掲示して告知し、同時に申込用紙を配布します。	
6	誰が： 特に行っていません。	
	具体的な研修内容： 当館のさらりーずはスタッフという位置づけではなく、あくまで楽しんで選書をしてもらい、図書館利用の活性につなげようという趣旨が強いため、現在のところ研修等は行っていません。	
7	<p>具体的な内容：</p> <p>基本的に学生の活動には常に職員が関わっています。活動日程の調整等も職員が行います。そのためスタッフと職員の交流は活動のたびにありと言えるかと思います。</p> <p>ただし直接的に集まって行う活動は年に数回程度なので、より学生間、学生職員間の交流を図るため今年度より昼休みを利用したランチミーティングを取り入れました。月に1、2度昼休みに集合して食事を取りながら活動の話などをするものです。これは正式なミーティングではないので議長も議長もありません。</p>	
8		
9		
10	<p>選書ツアーやミーティングの日程調整が難しいと感じています。</p> <p>選書ツアーを例年夏季休業期の平日に行いますが、医学部では9月には開講していることや他の休暇予定と重なることが多いため、全員参加が難しい状態です。</p>	
11	職員の中で利用サービス系を中心にした担当者ワーキンググループの・ようなものがあります。	
12	現在はメールリストを使っていますが、Facebookの利用を検討しています。	
13	<p>学生目線の選書なので他の学生利用者の興味も引いているようで貸出数が伸びており、学生選書コーナーが来館の動機になっている利用者も多いと感じます。</p> <p>また、利用者でもある学生と対話できる機会でもあるので、利用者から見た自館の問題点等も以前より見つけることが出来るようになりました。</p>	
14	今回初参加	今回初参加
15	<p>初めて参加します。</p> <p>他大学での学生協働の取り組み事例や、方法、効果等を知り、考える機会としたいと思っています。</p>	
16	<p>学生の目線をより効果的に取り入れることによって、また学生自身の活動を図書館と組み合わせることによって図書館自体の活性化や職員への刺激となることができればと思います。</p>	

21 立命館アジア太平洋大学

質問	回答	
	学生	職員
1	ALRCS (Academic Learning Resource Core Staff)	
2	人数： 44 人 (男： 21 人、女： 23 人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 1 人、2年生 9 人、3年生 15 人、4年生 19 人、大学院生 0 人	
	学部名 (人数) : アジア太平洋学部 (19名)、国際経営学部 (25名)	
3	各種オリエンテーション・ガイダンスの企画・運営 (新入生オリエンテーション、Microsoft Office、文献検索、ビデオ編集、ライブラリツアー等) 学習サポート、プロジェクト活動 (Training, Environment, Design, Session & Guidance)、マナー向上活動、広報物発行	
4	スタッフとしての活動期間中に、専用のジャケットを貸し出す。	
5	時期： 6 月ごろ	
	具体的な募集方法： 公募の上で、学生スタッフと担当職員の共同で審査・選考を行う。	
6	誰が： 学生スタッフ (Training Team) が	
	具体的な研修内容： 座学とOJT	
7	具体的な内容： 月に一回実施される全体ミーティングを主な機会としながら、活動方針について担当職員と学生スタッフが協議を行う。学生スタッフの自主性を尊重しつつも、大学やライブラリの運営方針からかけ離れないように議論の軌道修整を促したり、取りまとめの方法について助言を行ったりする。	
8		
9		
10	プロジェクト型 (非ルーチン) 業務の管理と評価	
11	専任職員1名と契約職員1名が、各々の担当業務の一部としている。	
12	メーリングリスト	
13	各種の課題や、利用者の要望を整理するにあたり、学生目線の意見を取り入れることにより、提案や報告の説得力を増すことができたように思う。 また、学生スタッフの活動にあこがれを抱く学生もいるようであり、「図書館の運営に学生も参加する」との雰囲気醸成するきっかけとなっているように思う。	
14	今回初参加	今回初参加
15		「学生が参加する図書館運営」の成功事例に触れ、本学ライブラリ運営のためのヒントを得たい。
16		学生の自主的な学習を喚起する仕組みの一つの方向性として、正課との連携の強化の必要を想定し、具体的な方法を探っている。 教員との連携はもちろん、学生 (TAとして、発案者として、スタッフとして、など) の参加による実現も視野に入れている。

## 22 熊本学園大学

質問	回答	
	学生	職員
1	熊本学園大学付属図書館	
2	人数： 22人（男： 12人、女： 10人）（下に内訳をご記入ください）	
	1年生 2人、2年生 7人、3年生 7人、4年生 6人、大学院生 0人	
	学部名（人数）：商学部（4人）、経済学部（12人）、外国語学部（2人）、社会福祉学部（4人）	
3	基本的に、月～金の17:00から閉館まで、土曜の12:30から閉館まで、日曜の開館時から閉館まで、ローテーションを組み、閲覧業務や参考業務を行っています。 4年生の6人のうち3人は、「学生コンシェルジュ」として、ラーニング・コモンズで文献検索やパソコン利用などの学生に対する学習支援を行っています。	
4	特別なユニホームはありませんが、エプロンの着用を義務付けています。	
5	時期： 5月ごろ	
	具体的な募集方法：図書館や学内掲示板に募集要項を掲示します。	
6	誰が：閲覧業務担当の職員	
	具体的な研修内容：OJT方式で、日々の仕事を通してその場で必要な指導をしています。 最初は閲覧業務から覚えてもらうため、閲覧業務担当の職員が指導を行います。	
7	具体的な内容： 職員と学生と一緒に業務を行うなど、日々の仕事を通じての交流はありますが、特別に交流する機会はありません。	
8		
9		
10	一番苦労していることは、シフトに入れないスタッフが多いことです。 図書館業務を行うために学生スタッフがローテーションを組んでいるので、シフトに入れないスタッフが多いと、ローテーションを組むことが難しくなります。	
11	学生スタッフを取り纏める職員はいますが、支える組織はありません。	
12	LINEを活用していますが、電話で連絡を取ることも多くあります。	
13	学生スタッフのアイデアによって様々な企画が行われたため、図書館は活発で開かれた空間になったと思います。	
14	今回初参加	今回初参加
15	学生協働についての基本的知識を得ることを期待します。 今後、学生協働に取り組むために、他大学の活動を参考にしたいと思います。	
16	現在の学生協働は、図書館業務のサポートが主となっているため、今後は、学生選書など、新たな活動をしていきたいと考えています。  図書館に利用者視点を取り入れ、学生の図書館利用を促進していきたいです。	

## 23 長崎大学

質問	回答	
	学生	職員
1	長崎大学附属図書館	
2	人数： 37 人 (男： 24人、女： 13人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 10人、2年生 10人、3年生 11人、4年生 2人、院生 2人、その他 2人	
3	学部名(人数)：多文化社会学部 1人、教育学部 4人、経済学部 11人、医学部 5人、歯学部 2人、薬学部 2名、工学部 5人、環境科学部 3人、水産学部 1人、工学研究科 1人、医歯薬学総合研究科 1人、留学生センター 1人	
	長崎大学附属図書館には、図書館運営への学生参加方法として、時間外職員(有償)と図書館サポーター(無償)の2種類がある。(時間外職員)平日17時～22時及び土日祝日に、1日2名ずつ週1・2回のローテーションを組んで、カウンター業務等を行っている。(図書館サポーター)まだ活動を始めて1年。現在は、学生選書ツアーへの参加及び補助業務、館内での展示、図書館サービスのモニタリングなどをボランティアで行っている。	
4	(時間外職員)スタッフ証有り (図書館サポーター)特になし	
5	時期：(時間外職員)1月ごろ、(図書館サポーター)随時	
	具体的な募集方法： 館内及び学内へのポスター掲示。図書館サポーターについては、新年度に現役サポーターによる茶話会を行った。	
6	誰が： 職員	
	具体的な研修内容： (時間外職員)カウンター業務について、採用決定後4時間程度の事前研修を行う。 (図書館サポーター)隔月で開催されるミーティングに参加してもらう。	
7	具体的な内容： (時間外職員)交流といえるほどの機会は設けていない。勤務交代時の会話程度。 (図書館サポーター)隔月開催のミーティング。	
8	主にLINE	
9	歓送迎会などをたまに行っています。	
10	活動し始めの頃に、作業の手順を覚えることです。	
	(時間外職員)業務指導。カウンターは図書館の顔だという意識を持たせること。 (図書館サポーター)今年度22名と人数が増えたので、全員参加のミーティングがなかなかできないこと。	
11	時間外職員・図書館サポーターともに職員2名が担当。	
12	メール及び電話	
13	図書館サポーターについては、活動を始めたばかりで、今はまだ特に変化は無いです。	
	(図書館サポーター) 昨年度から活動を始めたばかりで、学生の意見を直接取り入れ、運営に反映しやすくなった点に意義を感じている。今年度から夏季休業期間中の開館時間を3時間延長したことも、サポーターの意見を基にしたものである。また、展示ブースなど学生が発信する場が図書館内にあることは、図書館のイメージアップにも寄与していると思う。	
14	今回初参加	
15	とにかく、他の大学図書館がどのような活動をしているのかを知りたいです。	
	当館の図書館サポーターは活動をはじめたばかりで、まだ手探り状態である。他大学の取り組みを聞くことで、今後の活動のヒントを得られることを期待する。また、当館のように有償/無償と分けて学生協働に取り組んでいる館があるかを知りたい。	
16	利用者のためにできることを、色んな視点から考えていきたいです。	
	メイン利用者の意見を直接取り込み、反映できる学生協働は、変革を迫られている大学図書館になくしてはならない活動のひとつとなるのではないかと考えている。また、学生自身にとっても、活動を通して成長の機会となる、そんな場の一つに図書館がなれば良いと思う。	

## 24 鹿児島大学

質問	回答	
	学生	職員
1	鹿児島大学附属図書館	
2	人数： 21 人 (男：11人、女： 10人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 0人、2年生 1人、3年生 6 人、4年生 9人、大学院生 5 人	
	学部名 (人数)：法文学部(2人)，理学部(1人)，理工学研究科(2人)，工学部(3人)，農学部(3人)，共同獣医学部(2人)，医学部(2人)，歯学部(2人)，水産学部(4人)	
3	1年に1・2回の選書ツアーと1年に1回の学生モニター懇談会のみ	
4	ありません	
5	時期： 5 月ごろ	
	具体的な募集方法：図書館HPでの募集、先生方による紹介	
6	誰が：	
	具体的な研修内容：ありません	
7	具体的な内容：学生モニターの行事の一環である『学生モニター懇談会』のみです。	
8		
9		
10	選書ツアー・学生モニター懇談会ともに、なかなか学生の参加がふるわない点に苦労しています。	
11	特にありません。	
12	メール連絡	
13	職員では気づかない、学生目線の意見を聞くことができたようになった。	
14	今回初参加	今回初参加
15	鹿児島大学附属図書館では、学生協働がまだほとんどできていないということが現状です。他大学の先進的な例を学び、これから積極的に取り組んで行きたいと考えています。	
16		

## 25 島根大学

質問	回答	
	学生	職員
1	島根大学附属図書館 図書館コンシェルジュ	
2	人数： 15 人 (男： 8 人、女： 7 人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生(募集しない) 0人、2年生 2人、3年生 3人、4年生 5人、大学院生 3人、その他 2人	
	学部名(人数)：法文学部 2人 教育学部 1人 総合理工学部 2人 生物資源科学部 5人 教育学研究科 1人 総合理工学研究科 2人 研究生 2人	
3	○利用サポート活動 カウンターに座り、図書館の利用案内、資料やデータベース検索などの利用サポートを行う。 1週間でシフトを組み、一人が週に2コマ程度を担当する。	
	○自主企画活動 サービス改善、向上を目指した活動を、自ら企画して実施する。グループまたは個人で活動する。 現在活動中のグループは、<図書展示><広報誌><読書会><館内ツアー><ブックカバー><レポスタ支援>の6つである。	
4	専用エプロンを着用	
5	時期： 3~4月ごろ	
	具体的な募集方法：ポスター ホームページ	

質問	回答	
	学生	職員
6	誰が： 職員  具体的な研修内容： ○集合研修 活動の概要、図書館サービス、館内PCとネットワーク、基本的な情報検索 ○実地研修 返却作業、書架整理、ツアーガイド、模擬レファレンス、カウンター業務の説明、ペーパーテスト	
7	具体的な内容： ○定例ミーティング（月1回程度）で現状や課題を話し合う。フリートークの時間も設けている。 ○様々な研修の過程でアドバイス等を行う。 ○活動グループごとに担当職員がおり、相談にのったりアドバイスをを行う。	
8	○メーリングリスト ○コンシェルジュノート ○活動グループごとの専用トレー	
9	コンシェルジュノート（カウンターでの業務の合間に、思いついた企画、意見等を自由に記入し、コンシェルジュ間でアイデアの共有を行う。） コンシェルジュミーティング（週に1度、コンシェルジュのみで集まり、今後の活動方針、企画の反省会を行う。自由に発言できる雰囲気、活発な意見交換を行う。）	
10	島根大学のコンシェルジュは、複数の学科、学年で構成されているため、授業時間等が合わせにくい。 このため、各ミーティングでの出席率が低く、情報の共有が難しい。	○利用サポート活動ができる力をつけるための研修の実施 ○学生が授業等で多忙なため、全員が集まれる機会がない。
11		図書館コンシェルジュの活動をサポートする職員チームがある。メンバーは7名
12		○メーリングリスト ○コンシェルジュノート ○活動グループごとの専用トレー ○カウンター担当の際に直接
13	学生が大学附属図書館を最も利用するため、利用者目線から企画を立てることが出来た。また、学生であるコンシェルジュが学生の対応をするので、質問がし易くなった。	○利用者にとって、カウンターで質問しやすくなったのではないかと。 ○学生のアイデアによる、これまでになかった企画が行われるようになった。
14	他大学の活動を参考にし、いままでになかった企画を立てることが出来た。	特になし
15	昨年のシンポジウムを経て、より活発になった他大学の活動を参考にし、また新しい企画が生まれると良い。	○刺激を受け、活動に活かしてほしい。
16	現在の島根大学は、一期ごとにメンバーがほぼ入れ替わっているため、新メンバーに対しての業務説明や企画立案について、引継が上手くいっていない。 このため、企画を始める時期が遅くなり反省などを通しての質の向上が出来ていない。 今後は、長くコンシェルジュを務める習熟したメンバーの育成が必要だと思われる。	○利用サポート活動は、研修を行う職員の負担が大きい。継続して活動できる学生を確保し、学生同士でも教え合うしくみを作る必要がある。ある程度サポートができる力のあるスタッフを確保できるかも大きい。 ○積極的、自発的な活動を期待する。そのために、職員はどのように関わっていけばいいのかが課題である。 ○決まった枠にとらわれず、学生の希望や個性を活かした活動を尊重していきたい。

質問	回答	
	学生	職員
1	学生図書委員会	
2	人数： 7 人 (男： 4 人、女： 3 人) (下に内訳をご記入ください)	
	1年生 2人、2年生 4人、3年生 人、4年生 1人、大学院生 人	
	学部名(人数)：総合政策学部(7名)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会(月1回)…活動について話し合いをする。</li> <li>・月展示…図書委員がおすすめする本をPOPを付けて配架する。</li> <li>・ブックハンティング(年1回)…学生向けの図書を選書する。</li> </ul>	
4	なし	
5	時期： 4～5月ごろ 具体的な募集方法： ポスター作成・掲示し、周知する。	
6	誰が： 具体的な研修内容： なし	
7	具体的な内容： ・定例会…活動について一緒に話し合う(基本的に学生が主体だが、職員も話し合いに参加)。	
8	lineです。	
9	特にありませんが、一緒にPOPを書いたり、本棚の展示を変えたりしています。	
10	全員が忙しいので、スケジュールを合わせる事がとても難しいです。また人数が少ないのでできることに限りがあります。	学生図書委員全員が集まって十分な話し合いをする時間が少ない(授業・アルバイト・サークルなどがあるため予定調整が難しい)。
11	なし。	
12	学内メール、電話。	
13	学生図書委員が選書に関わることによって、学生が本当に読みたいと思っている本を入荷できると思います。	学生図書委員がおすすめする図書を、POPなどを使い工夫して展示しているので、学生が大学図書館の蔵書に興味を持つようになったと思います。
14	他大学の活動を知ることで視野が広がりました。自分たちの学生協働の特徴も分かり、自信をもって活動できるようになりました。	他大学の状況を知ることで、本学で行っている活動の参考となり、学生の意識が高まったと思います。
15	ポスターセッションが楽しみです。学生協働の事例をたくさん見開して、今後の活動に生かしたいと思います。	学生図書委員になって1～2年目のまだ経験の少ない学生が主体なので、図書館における学生協働について深く考える機会になればと思います。また、職員を含めて、他大学の活動から刺激を受け、今後の活動につなげることができたらと思います。
16	利用者がより楽しく、使いやすい大学図書館になるように活動していきます。	従来の図書館職員だけでなく、一利用者である学生が図書館運営に関わることで、利用者(学生)目線に立った、親しみのある大学図書館を作っていきたいと思います。

27 島根県立大学短期大学部松江キャンパス

質問	回答	
	学生	職員
1	島根県立大学短期大学部松江キャンパス図書館	
	人数： 19 人（男： 1 人、女： 18 人）（下に内訳をご記入ください）	
2	1年生 8 人、2年生 11 人、3年生 人、4年生 人、大学院生 人	
	学部名（人数）：総合文化学科（19人）	
3	<p>【図書館内の活動】 読書マラソン、読書会、選書（年2回）、企画展示のディスプレイ、先生のおすすめ本展示</p> <p>【おはなしレストランライブラリーでの活動】 としょかんくいず、おはなしマラソン</p> <p>【その他の活動】 図書館新聞の発行、大学祭参加、ブックカバー作成、ブログ・facebookの更新</p>	
4	なし	
5	<p>時期： 4月ごろ</p> <p>具体的な募集方法：新入生ガイダンスでの募集、サークル紹介での募集、メールでの募集</p>	
6	<p>誰が：</p> <p>具体的な研修内容：行っていない</p>	
7	<p>具体的な内容： 活動についてのアドバイスや活動記録写真撮影時などで個々との交流の機会がある。 また、歴代の学生図書委員を含む、学生図書委員と職員との交流会。 学生図書委員と職員との交流だけではなく、学生図書委員同士の交流の機会を設けるためにこのような形にしている。</p>	
8	LINE	
9	新入生歓迎会・食事会を開催している。	
10	全員で集まって活動する時間を取るのが難しいこと。	2年しか活動期間がないため引き継ぎに苦労する。
11		なし
12		メール、LINE
13	読書マラソンなどの学生が参加できるイベントを企画したことで、図書館を利用したり興味を持つ学生が増えたと思う。	今まで、図書館利用の仕方は限られていたが（学習、貸出）企画やイベントを通して、図書館を利用してもらえるようになったと思う。そして、学生と図書館との距離が近づいたと思う。
14	選書ツアーやブックカバー作成、ワークショップの開催など良いと思った活動を実際に取り入れた。	こういうことがしたい等、積極的に自分たちのしたいことを口にしてもらえるようになった。
15	他大学との交流。他大学の活動を知り参考に出来たらと思う。	他大学との交流。他大学の活動を知ることで自分たちの活動について考えるきっかけにして欲しい。
16	今後も学生や地域の方が参加出来るような企画を開催し、図書館に興味を持つ人が増えるよう取り組んでいきたい。	「協働」という言葉に捉われ過ぎず、誰のために、何のために活動を行っているのか、自分たちに何が出来るのか、何がしたいのかを考えて活動して欲しい。「協働」が目的になっては、いけないと思う。協働の先にあるものを考えていけるといいと思う。

## 28 梅光学院大学

質問	回答	
	学生	職員
1	図書館サポーター	
2	人数： 23 人（男： 3 人、女： 20 人）（下に内訳をご記入ください） 1年生 6人、2年生 11人、3年生 6人、4年生 0人、大学院生 0人 学部名（人数）：文学部（23人）	
3	部会を週1回行う。活動内容によっては、その都度行う。 具体的な活動：しおり・ブックカバー作成（オープンキャンパス等の行事の際、配布するため） 館内ごみ入れ作成、オープンキャンパス時の図書館案内、テーマコーナー担当、ブックハンティング	
4	ある。黄色のポロシャツ	
5	時期： 特に4月ごろだが、年中、受け付けている。 具体的な募集方法：ポスター 勧誘会	
6	誰が： サポーター長 具体的な研修内容： POPの講習会を行う。	
7	具体的な内容：部活 相談、伝達は随時	
8	メール LINE	
9	なるべく顔を合わせて、コミュニケーションを取る。	
10	活動時間がなかなか合わないこと。	週1回の部会に必ず出席しているが、出過ぎて学生の自主性を損ねないようにしながらも、必要な提案・助言はするようにしている。 時には苦言を呈することもあるが、その兼ね合いが難しいと感じる。
11		図書館職員3人で、支えて行こうとしている。
12		主にメール
13	学生目線が入ることで、学生が使いやすい図書館になったと思う。不要なレシートの散乱に気づいた学生の意見により、レシートを入れる箱を作成した。	・オープンキャンパス時の案内を図書館サポーターが行うことによって、図書館に親しみをもってもらえることができる。 ・コーナー展示やその他の活動を館内ですることによって、図書館の活性化に役立っている。 ・図書館スタッフの気づかないでいることを指摘してくれ、改善のために動いてくれた。（レシートごみ入れ作成）
14	他大学の活動を意識し、自大学の活動を振り返り意欲が湧き、新しい試みをした。（近隣の小学校に行き、POP作りの講習会を行う、PTAに図書館サポーターの活動を報告する等。）	今年度から図書館職員になったため、前回のことはわからない。が、前年度に比べシンポジウム参加人数が減った。活動内容も、縮小気味とのことだが、そのことに問題意識を持っているとのことなので、まさに「ゼロからの協働」である。応援したい。
15	今回のシンポジウムでさらに他大学とのつながりを増やし、合同の活動につながることを期待する。（例えば、POPコンテスト等。）	初めての参加になるので、他大学の活動を参考にしたい。学生も職員もシンポジウムに参加することで、成長できればと願っている。
16	これから更に参加大学が増え、有意義なシンポジウムになると思う。	この活動により、学生が成長し、これからの就職活動や生き方に良い影響を及ぼすことを期待する。 職員も共に活動することにより、学生目線で図書館を見直し、利活用につなげることができればと思う。

29 山口大学医学部図書館

質問	回答	
	学生	職員
1	山口大学 医学部図書館	
2	人数： 10 人（男： 2 人、女： 8 人）（下に内訳をご記入ください） 3年生 4人、4年生 4人、5年生 2人 学部名（人数）： 医学科 4人、保健学科 6人	
3	・ カウンター業務（学生協働は夜間・休日のカウンタースタッフでもあります）・ 選書（不定期） ・ 資料の展示（不定期）・ オリエンテーションやオープンキャンパスなどの図書館行事への参加	
4	特にないです。	
5	時期： 4月ごろ 具体的な募集方法： 学生からの紹介	
6	誰が： 学生、職員 具体的な研修内容： カウンター業務研修	
7	具体的な内容：週に1回、事務室に集まっています。特に行事は設けていませんが、学生が図書館を利用する際になどに会話します。	
8	メール、LINE	
9	食事会	
10	授業時間が多いため、学生同士が会う機会が少なく、活動時間が限られている。	学生さんが活動できる時間が少ないこと。 職員に余裕がなく、あまり相談にのってあげられないこと。
11	医学部図書館の副館長、職員5人全員	
12	メール、口頭	
13	より図書館が学生にとって使いやすい場となった。	学生が企画した写真展に友人の学生が来たり、学生にとって親近感が増したように思います。学生にDVDの紹介コーナーを作ってもらったところ、貸出回数が増えました。
14	今回初参加	今回初参加
15	他大学の活動から、自館にとって有効な活動内容を考える機会を得る。	各大学の学生協働がどのような活動をしているのか、どのような雰囲気なのか、どのような人があるのか、どのような考えを持っているのかを知り、刺激を受けて、今後の活動に活かしてほしいです。
16	図書館が学生にとってより身近なものとなっていくことを望む。	少しずつでも、学生さんと一緒に、使いやすい図書館に変えていきたいと思っています。

30 山口大学総合図書館

質問	回答	
	学生	職員
1	山口大学総合図書館学生協働	
2	人数： 40人（男： 7人、女： 33人）（下に内訳をご記入ください） 1年生 7人、2年生 9人、3年生 17人、4年生 6人、大学院生 1人 学部名（人数）： 人文学部（25人）、教育学部（3人）、経済学部（4人）、理学部（2人）、農学部（3人）、工学部（1人）、医学部（1人）、教育学研究科（1人）	
3	カウンター業務（貸出返却処理・レファレンス・排架など）、WG活動：展示、本の修理、POP作り、大学祭への出店） ※WG（ワーキンググループ）…学生協働内の小団体。学生の発案により結成し、適宜活動している。目的やコーナーに応じてさまざまなWGがある。	
4	エプロンを着用している。1～3年生：赤エプロン、4年生：青エプロン	
5	5月中旬（年によって変わる） 具体的な募集方法：ポスター、チラシの作成。希望者は職員と面談。	
6	誰が： 学生（協働メンバー） 具体的な研修内容：今年は学生が研修計画・日程調整も行い、新メンバー全員にカウンター研修を行ってもらった。研修の中には図書館が改修工事後で新しくなったため図書館内の案内も組み込んだ。	
7	具体的な内容：日頃から挨拶や会話は行っておりまた、随時必要があれば学生が職員の元を訪れている。それ以外にも年に何度か食事をしながらの交流の場がある。	
8	専用のメーリングリストが主。学生同士で携帯メールやSNSを使うこともある。	
9	日頃から話をするなど交流は多いが、新メンバー加入時には親睦会を開いたり学生間で食事会を開いたりなどもしている。	

質問	回答	
	学生	職員
10	<p>■カウンター業務について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に増え変化する情報を覚え、一つの方法に捉われるのではなく視野を広く持ち考えることで、様々な方法を利用者に提示できるようにし、どの利用者にもその時できる一番良い対応をすること。</li> <li>・レファレンス等、メンバーによって利用者対応に差が出てしまわないよう対応を統一すること。</li> <li>・利用者とコミュニケーションをとること。</li> </ul> <p>■WG活動その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WGリーダーとしてメンバー全員をまとめ、ひとつの答えや案を出さねばならないこと。</li> <li>・メンバーの日程を合わせること。</li> <li>・より良い図書館を考え、常に意識を高く持ち続け、変化していく図書館に対応すること。</li> <li>・自分の悪い癖（短所）を改善すること。</li> <li>・思いついたアイデアを形にすること。</li> <li>・自分自身がいま何のために活動しているのか絶えず自問自答すること。</li> </ul>	<p>メンバー数が増え活動の幅が広がると、活動の内容や時間数を把握する労力や、WG活動に対して気になる点が増えたりして、学生の活動を管理したり、指導したりする側面が強くなりがちですが、あくまで学生の自主性を尊重し、彼らが自ら課題に気づき、解決に向けて行動できるよう、配慮しています。</p>
11		<p>課長、副課長、数系の係員数名による組織があります。定期的に協議の場を設け、今後の方針などを話し合っています。</p>
12		<p>メーリングリストが主です。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用者目線」に立って活動することで利用者のニーズを掴みやすくなり、より需要の高い図書を考えて置くことができるようになった。</li> <li>・学生と職員が共に考えることでよりニーズにあった図書館の形が見え、そこへ向けて改善が行われているように思う。</li> <li>・学生にとって親しみやすい図書館・使いやすい図書館になり、分からないことを尋ねやすくなったのではないかと思います。</li> <li>・学生ならではのアイデアが取り入れられるようになり、それぞれのセンスを活かした企画立案を行い利用者の心をつかんでいると思う。</li> </ul>	<p>一部コーナーの選書を任せて学生のニーズにあった資料を収集したり、学生の興味のあるテーマで企画展示を行うなど、学生目線の図書館づくりができるようになったと思います。また、カウンター業務や新入生オリエンテーションの講師役を学生がすることで、利用者である学生に、質問しやすい、来やすい、という親近感を持ってもらえるようになったのではないかと思います。</p> <p>さらに、利用者でもあるメンバーと日々交流することで、職員も鍛えられ、仕事のあり方や図書館サービスを見直すきっかけになっています。</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいWGができた。</li> <li>・情報発信としてを参加以前より行うようになった。</li> <li>・メンバー同士の意見交換が活発になった。</li> <li>・モチベーションが上がった。</li> <li>・参加メンバーの話聞くことで学生協働の活動について改めて考えた。</li> </ul>	<p>シンポジウムが自分たちの活動を振り返るきっかけとなり、何を目的に活動しているのか、自分のやりたいことは何か、ということを確認し、モチベーションアップや新しい活動などに繋がっているように思います。</p> <p>特に、シンポジウムの準備や当日の発表に参加した学生は、その後の活動が活発になり、先を見て計画的に行動できるようになりました。</p>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生協働に対してどのような思いを持っているかについて活発な意見交換の場になってほしい。</li> <li>・山口大学の魅力を伝えるとともに、他大学から特色のある活動や良い点を吸収して自分たちの活動の参考にしたい。</li> <li>・今までのシンポジウムを一新し、他にないものにしたい。</li> <li>・「学生協働」の主体である学生の思いが生かされている、伝えあえるシンポジウムであることを期待している。</li> <li>・自身の視野を広げるものであればと思う。</li> <li>・各図書館で内容に富んだ活動が始まればよいと思う。</li> </ul>	<p>シンポジウムのテーマに「0から考える学生協働」とあるように、今一度、学生協働とは何なのか、これから先どのようなことを展開していけるのか、多くの人とともに考えることのできる場になればと思います。</p> <p>また、特に本学の学生にとっては、他大学の方と2日間に渡って交流し、学生協働について深く意見を交わす機会は滅多にないので、参加する皆さんにはぜひ積極的にコミュニケーションをとってもらいたいと思います。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報に力をいれ、さまざまな人に活動を知ってもらいたい。</li> <li>・それぞれの考えや見方を全体で共有するために情報伝達を確実なものとし、メンバー同士でアイデアについて試行錯誤して、また職員に意見を求め話し合いながら様々な角度から図書館をより良いものにしていける団体になればと思う。</li> <li>・学生協働として利用者に近い感覚でニーズを発見しながら活動し、学生ならではの活動を行いつつニーズを取り入れ図書館の一部として認識されるようにしていきたい。</li> <li>・活動をただ続けるのではなく意欲的に活動していくためにも、後輩にどんな活動をしていたか、どのような意識で取り組んでいたのかについて伝えていこうと思う。</li> <li>・客観性を忘れず、常に変化を求めながら、貫くところは貫いて活動していきたい。</li> <li>・メンバーの現状を変えたいという気持ちを普段の学生生活や活動の中に還元していきたい。</li> <li>・学生協働が今後進む方向性について話し合っていく、全員が同じ方向に向かって活動していけるようになりたい。</li> <li>・「答えの出ない問題」について立ち止まり、考えるといった流れをながしにしない集まりになりたい。</li> <li>・活動を通して働くということはどういうことかということを考えるだけでなく、社会に出る前にコミュニケーション能力を高める、企画を打つという貴重な経験を積んでいきたい。</li> </ul>	<p>学生と職員が、より一層切磋琢磨し合える関係になることができればと思います。</p> <p>また、この4月に総合図書館が改修工事を終え、リニューアルオープンをしました。新しくできたラーニングコモンズやその他のコーナーについて、学生とともにより良いあり方を考え、ともにその形を作っていきたいと思っています。</p> <p>なお、最近では図書館外の人や部署との連携も増え、学生協働の可能性が更に広がりつつあります。学生協働の活動を支えるのは、学生と職員双方のモチベーションです。活動を楽しむ気持ちを忘れずに、ともに成長していきたいと思います。</p>

# バス・JR 山口線時刻表

8月21日(木)

※山口大学総合図書館見学終了後

## ★1日目のみ参加方・新山口駅周辺に宿泊される方

- 山口大学前 → 新山口駅 → JR 新山口駅
- 山口大学(前) → 湯田温泉駅入口 → JR 湯田温泉駅 → JR 新山口駅

## ★湯田温泉に宿泊される方

- 山口大学(前) → 下湯田または湯田温泉(通)

### 山口大学前→新山口駅 ※下記キャンパスマップ内③番のバス停(正門を出て左)でお待ちください。

バス会社	防長	防長
山口大学前発	17:54	19:22
新山口駅 着	18:18	19:45
行先	新山口駅	新山口駅

### 山口大学(前)→湯田温泉駅入口→下湯田→湯田温泉(通)

※JR便は下記キャンパスマップ①番、防長便は②番のバス停でお待ちください

バス会社	JR	JR	防長	JR	防長	JR	JR
山口大学(前) 発	18:10	18:35	19:11	19:22	19:23	19:57	21:30
湯田温泉駅入口発	18:14	18:39	19:14	19:26	19:26	20:01	21:34
下湯田 発	18:16	18:41	19:16	19:28	19:28	20:03	21:36
湯田温泉(通) 着	18:17	18:42	19:17	19:29	19:29	20:04	21:37
行先	防府駅	防府駅	宮野車庫	防府駅	県庁前	防府駅	防府駅

### JR 湯田温泉駅→JR 新山口駅

湯田温泉発	18:22	18:59	19:27	20:14	20:51	21:17	21:44	22:10
新山口 着	18:41	19:17	19:45	20:32	21:09	21:36	22:02	22:27
行先	新山口							

8月22日(金)

※朝

## ★新山口駅周辺に宿泊された方

- 新山口駅 → 山口大学前
- JR 新山口駅 → JR 湯田温泉駅 → 湯田温泉駅入口 → 山口大学(前)

## ★湯田温泉に宿泊された方

- 下湯田または湯田温泉(通) → 山口大学(前)

### 新山口駅→山口大学前

※新山口駅北口(在来線口)7番のりばでお待ちください。

### JR 新山口駅→JR 湯田温泉駅

バス会社	防長	新山口 発	7:57	8:26
新山口駅 発	7:45	湯田温泉着	8:16	8:44
山口大学前着	8:11	行先	宮野	宮野
行先	県庁前			

### 湯田温泉(通)→下湯田→湯田温泉駅入口→山口大学(前)

※湯田温泉・湯田温泉通…JR便は6番、防長便は5番のりばでお待ちください。

※下湯田…山大通り(県道200号)「ラーメン来來亭」前のバス停でお待ちください。

バス会社	JR	防長	JR	防長
湯田温泉(通) 発	8:17	8:18	8:37	8:45
下湯田 発	8:18	8:19	8:38	8:46
湯田温泉駅入口発	8:20	8:21	8:40	8:48
山口大学(前) 着	8:24	8:24	8:44	8:51
行先	山口大学	山口リハビリ病院前	山口大学	新山口駅

※シンポジウム閉会后、総合図書館前よりJR新山口駅行きの臨時バスを運行します。発車時刻は14:00です(無料)。

## 主な区間の料金

※バス・JRとも交通系ICカード(Suica・PASMO等)での支払いはできません

- JR 新山口駅 ~ JR 湯田温泉駅 ¥240
- 山口大学(前) ~ 新山口駅 ¥520
- 山口大学(前) ~ 湯田温泉駅入口 ¥150
- 山口大学(前) ~ 下湯田 ¥170
- 山口大学(前) ~ 湯田温泉(通) ¥200

## 主なタクシー会社

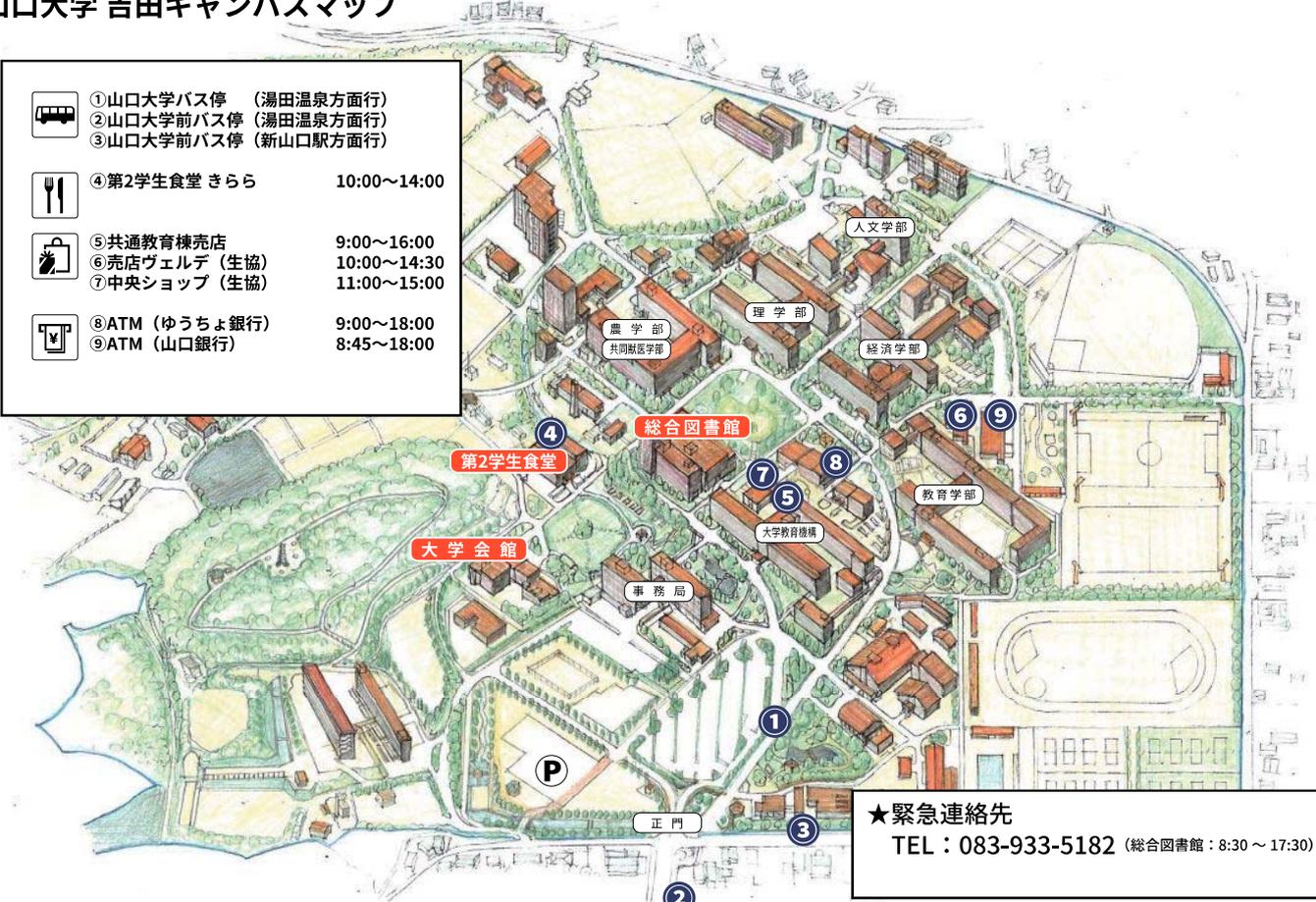
- 大隅タクシー 083-922-0860
- いさむや第一交通 083-922-1368
- スミスハイヤー 083-922-1881
- 中司タクシー 083-922-0812
- 湯田都タクシー 083-922-0232

上記以外のバス時刻表は右記2次元バーコードより検索できます。  
リンク先の「山口県路線バス」より「防長交通」または「JRバス中国」を選び、検索してください。



# 山口大学 吉田キャンスマップ

- ①山口大学バス停(湯田温泉方面行)
- ②山口大学前バス停(湯田温泉方面行)
- ③山口大学前バス停(新山口駅方面行)
- ④第2学生食堂 10:00~14:00
- ⑤共通教育棟売店 9:00~16:00
- ⑥売店ヴェルデ(生協) 10:00~14:30
- ⑦中央ショップ(生協) 11:00~15:00
- ⑧ATM(ゆうちょ銀行) 9:00~18:00
- ⑨ATM(山口銀行) 8:45~18:00



★緊急連絡先  
TEL: 083-933-5182 (総合図書館: 8:30~17:30)